

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

## ★9/26 木『第2回 SAH 講演会』の中山芳一先生の講話より★

守破離とは、日本での茶道、武道、芸術等における師弟関係のあり方の一つである

# 守

教えを守り私意をさし  
はさむことなく、ひたすら  
基本を身につける段階  
である。書道の楷書に  
あたるもので、一点一画を  
ゆるがせにしない心配りが  
大切である。

# 破

守りの殻を破り躍進する  
時代である。いままでの  
教えを基礎とし、中核  
として、自己の知能や個性  
を発揮して次第に自己の  
剣道を創造する時代で  
書道の行書にあたる領域  
である。

# 離

孔子の七十にして矩(のり)  
を超えずの境地であり、  
あらゆる修行の結果我が  
思いのままに行動して、  
いさかも規矩にはずれ  
ることなく、自由闊達に自己  
の剣風を発揮できる時代  
である。

第2回 SAH 講演会の質疑応答の時間に、『教科担当者から出される課題』について『主体性を育成するためには、必要ではないかと思われる。しかし、必要な気もするし……。中山先生のお考えをお聞かせください!』といったニュアンスの問いが生徒から出されました。この場面を覚えていますか？

私は『いい質問だな～!』とは思いながらも難しい質問だなと思いました。本音を言えば『生徒が主体性をもって学習してくれるなら課題は不要!』とも言えるし、『大学受験をはじめて体験する生徒は、つまずくことも多く、遠回りをしてしまい、最短距離で目標達成することは難しい。よって、経験豊富な先生方が必要な課題を与えてくれた方が、限られた時間の中で目標を達成するためには効果的である』とも言えると思いました。しかし、これはどっちつかずで、歯切れの悪いズルい回答です。

そこをさすがは中山先生! 『しゅはり(守破離)』という言葉を用いて簡潔に回答してくれました。

わかった人も多いかと思いますが、聞き慣れない言葉でしたので、ここで解説したいと思います。上の図にもあるように『守破離(しゅはり)』という言葉は、日本の武道や伝統芸能の世界で使われてきた言葉です。

### 守破離 3 Steps



#1 守

教えや型を忠実に守り  
身につける段階



#2 破

自分なりのやり方  
を模索する段階



#3 離

新しいものを生み出す段階

『守』とは『師の教え』や『型』を守ること、つまり『基礎の段階』で、『破』とは『自分で考え工夫する段階』、つまり『自立の段階』、そして『離』とは『独自の新しい世界を確立すること』、つまり『創造の段階』であると。

すなわち、『教科担当から出される課題』とは『師の教え』や『型』に従う段階としては有効であるので、『定着』や『習慣づけ』『基礎固め』としては効果的である。しかし、『主体性』を育成していくためには、いつまでも『守』の段階に留まるべきではない。自分で自分の状態を見極め、『破』の段階に進んでよいのだと。

突然の質問内容に対し、とっさにこの回答が出る中山先生はすごいですね。ものすごい説得力です!

『守』の段階をいつ脱却し、『破』の段階に進むのかはみなさんの『状況』や『意識』次第でいいと思います。もちろん『数学』は『守』の段階だが『英語』は『破』の段階に進みたい!といったように、ものごとによって選んできていいと思います!

したがって『苦手な科目の基礎』を学習していても『やり方』や『姿勢』の点では『破』の段階に入ってみてもよいのです。『勉強の仕方がわからない』と言い『具体的な試行錯誤』をしていないのはいけません。『失敗から得られる教訓』を活かし、さらに『試行錯誤』という『自分なりの工夫』をすればいいのです!中山先生の言うとおり『意味のない失敗などない』のです!

私の個人的見解ですが、入試対策においては『離』の段階には届かなくともよいと思います。大学に入ってからや、社会人になってから、『自分が活躍したい領域』で、いつか『離』の状態に入れたらよいですね。私も『通常の教頭』という『型』を日々『破』りたいと思っています。しかし、中山先生の講話の中で『非認知能力があればあるほどいいというわけではない』とおっしゃっていましたね。『デメリット』も自覚しながら『主体性』を発揮していく『バランス感覚』も重要なわけです。まずは『型』を『守』り、次第に『破』の段階の『自分なりの工夫』をどうぞ!みなさん『守破離』でいきましょう!(文責:教頭 星野 亨)

★校長より★生徒からの「教科担当者から出される課題」の質問に対する「自分なりの答え」を考えてみました。高校生が目指す「主体的な学び」の一つに「高3で受験勉強を自分でマネジメントできる」ところがあると思います。そのためには①基礎的な学習内容の理解、②自分自身の理解(メタ認知)、③入試問題等の理解、④①～③を組み合わせ「学習」を組み立てる方法の理解の4点が必要だと考えます。この①③には課題は有効です。②④は学習、試験の結果や他のツールから自分を評価したり、試行錯誤をしながらトレーニングをしたりすることが必要となります。以上が私の答えですが、中山先生の「守破離」で整理された回答と比較するとかなり分かりづらいですね。前述の自分の考えと合わせて、「守破離」は一方通行ではなく、行ったり来たりするものというのが私自身が消化した内容です。皆さんも各自で「守破離」を消化し、自分自身の「主体的な学び」の組み立てに挑戦してみてください。 校長 原 拓史